

看護学生の職業に対する意識調査

— 開学から4年間の比較 —

竹内文生、井澤方宏、國岡照子、加城貴美子、柴原君江、美田誠二、大江基、青木康子

要 旨

看護学生の教育においては、学生の社会的背景や職業に対する意識の実態を把握することが重要である。本研究は、過去3年間の学生の意識調査を基に1998年度の看護短期大学の学生を中心に入学時の調査を行ったものである。

調査の内容は、学生の社会的背景、入学の動機、卒業後の進路、キャリア発達、自尊感情等である。

その結果、1) 1998年入学生では自宅からの通学者が多くなり、自分専用の部屋を使用している者の割合が多い傾向にある。2) 通学時間に2時間以上を要する者がおり、健康上の配慮が必要であろう。3) 看護職を志望するにあたって最も影響を受けたこととして、「一日看護体験」をあげる者の割合が増加している。4) 短大卒業後の進路については、進学志望者の減、四年制看護系大学への編入希望者の減の傾向がみられる。5) 看護職志望の程度として、「看護職になることを強く希望していた」が年々増加の傾向にある。6) 進路決定時期は、小・中学生の時が最も多い。開学から過去4年間の入学時の比較では、大きな変化は見られないが、1998年入学生が最もこの傾向が高かった。7) 職業選択の条件では、「人間関係が良いところ」が最も多く、過去3年間の傾向と同様で、一般看護婦の職業選択と同様の傾向を示している。7) 職業継続の意思は、「子供ができたらしめやめて、子供の手が離れたら再就職する」が最も多い。この傾向は年度差が見られた。8) 看護婦の職業イメージは、最も平均値の高いものが「やりがい」で、過去3年間同様で変化は見られなかった。9) ライフスタイルについては、最も平均値が高いのは「自分の目標に向かって生きていきたい」であった。この傾向は年度差が見られた。10) 自尊感情(Self-Esteem)に関しては、通常得点群(20～29点)が多く、72.6%で、次いで高得点群(30点以上)が14.5%で、低得点群が13.2%であった。自分自身の当てはまり具合に関しては、平均得点は、過去3年間より高いものが多い。

キーワード;学生の社会的背景、卒業後の進路、職業の継続、自尊感情(Self-Esteem)

I はじめに

看護学生の教育においては、学生の社会的背景や職業に対する意識の実態を把握することは重要である。1995年に開学し4年目を迎えた本学において、入学時における学生の、職業に対する意識調査を継続して実施してきた。本研究は、過去3年間の調査を基に、1998年入学生を対象として調査を行ったものである。

看護短期大学生の入学時を中心とした継続的調査の意義は、1995年に開学した本学入学生の意識の実態や動向を知ることにより、看護専門職を育成する示唆を得るためである。

II 研究方法

1. 調査対象: 3年課程看護短期大学(1998年度年入学生) 一年生80名(女子72名、男子8名)を対象として、同意の得られた62名(女子56名、男子6名)について調査を行った。回答率は77.5%であった。
2. 調査日: 平成8年4月14日
3. 調査方法: 半構成的質問紙調査、一週間留置法
4. 調査内容:
 - (1) 主な社会的背景及び入学動機等としては、高等学校での課程、受験資格、住居、婚姻関係、家族等に医療関係者の有無、予備校での学習、

他の学校の受験状況、本短大を希望した理由、卒業後の進路、希望していた職業の種類、看護職希望の程度

(2) キャリア発達としては、進路決定の時期、職場の選択、職業の継続意思、職場及び看護婦の職業イメージ、ライフスタイル、自尊感情(Self-Esteem)について調査した。

5. 用語の定義

キャリア発達、自尊感情(Self-Esteem)、ライフスタイルの定義は、既報1)と同様である。

Ⅲ 結果及び考察

回答者(以下「98年入学生」という)の平均年齢は、18.8歳(18～33歳)で、20歳未満が全体の89.8%を占めており、昨年度入学生(以下「97年入学生」という)の18.4歳とほぼ同様である。1996年度入学生に推薦入学制度を導入してからは、新入生の年齢が若くなっている(表1)。

表1 対象者数及び年齢

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
調査対象者	80(1)		80(3)		80(2)		80(8)	
解答者	77(1)	100.0	77(3)	100.0	79(1)	100.0	62(6)	100.0
18歳	40	51.9	59	76.6	56	70.9	46	74.2
19歳	24	31.2	11	14.3	16	20.3	7	11.3
20歳	5	6.5	1	1.3	4	5.1	2	3.2
21歳	5	6.5	1	1.3	0	0.0	0	0.0
22歳	0	0.0	2	2.6	0	0.0	0	0.0
23歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.6
24歳以上	3	3.9	3	3.9	1	0.0	3	4.8
誤記入等	0	0.0	0	0.0	2	2.5	3	4.8
平均年齢	19.1		18.7歳		18.4歳		18.8歳	
	(18～36歳)		(18～36歳)		(18～24歳)		(18～33歳)	

*():男子再掲

1. 主な社会的背景及び入学の動機等

1) 高等学校での課程は、普通科が61名、理数科が1名である。97年入学生は理数科が6名、商業科が1名いたのとは様相を異にしているが、全体としてはこれまでの調査結果とほぼ同様である。

2) 受験資格は、全員が高等学校卒業であり、大学検定はいなかった。

四年制大学を卒業した者が2名、高等専門学校(医療関係)を卒業したものが1名である。これまでの3年間で、短期大学卒業者が6名、高等専門学校卒業者が2名、四年制大学卒業者が4名であるので同様な傾向である。

3) 現在の住所は、自宅が42名(67.7%)である。97年入学生は45名(58.4%)、96年入学生は47名(61.0%)、95年入学生は43名(55.8%)であるので、1996年度に推薦入学制度を導入してからは、自宅からの通学者が多い傾向にある。

同居者ありが43名(69.3%)で、同居者はすべて家族である。

専用の個室ありが56名(90.3%)である。97年入学生の56名(70.9%)、96年入学生の63名(81.8%)に

表2 通学に要する時間(片道)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
30分以内	21	27.3	29	37.7	30	38.0	19	30.6
30分～1時間以内	23	29.9	9	11.7	14	17.7	11	17.7
1時間～1時間30分以内	20	26.0	28	36.4	18	22.8	21	33.9
1時間30分～2時間以内	10	13.0	9	11.7	13	16.5	5	8.1
2時間を超える	3	3.9	2	2.6	3	3.8	6	9.7
平均	71.7分		55.8分		59.1分		64.0分	
* ():2時間超再掲	(3時間超:2名)		(2時間30分:1名)		(2時間10分:1名)		(2時間10分:2名)	
			(2時間45分:1名)		(2時間15分:1名)		(2時間15分:2名)	
					(2時間30分:1名)		(2時間30分:2名)	

比較して多くなっている。

4) 通学に要する時間(片道)は、表2のとおりで、1時間以内が30名(48.4%)、1時間を超える者は32名(51.6%)、平均は64.0分である。推薦入学制度の導入により、通学に要する時間は短縮の傾向にあったが、97年入学生の59.1分に比し延長している。特に通学時間が2時間を超える者が6名、最高は2時間30分が2名である。首都圏の特性とは言え、健康上の配慮が必要であろう²⁾。

5) 入学前に就業(修学期間中のアルバイトは除く)したことがあるのは3名、なしが58名

表3 医療関係者の有無及びその職種

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
医療関係者なし	31	40.3	38	49.4	22	27.8	29	46.8
医療関係者あり	46	59.7	39	50.6	57	72.2	32	51.6
記載なし	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.6
看護職	34	73.9	30	76.9	38	66.7	22	68.8
医師・歯科医師	8	17.4	6	15.4	11	19.3	7	21.9
薬剤師	6	13.0	5	12.8	10	17.5	3	9.4
理学・作業療法士	4	8.7	0	0.0	3	5.3	2	6.3
臨床検査技師	3	6.5	3	7.7	1	1.8	0	0.0
診療放射線技師	3	6.5	0	0.0	4	7.0	1	1.6
養護教諭	2	4.3	1	2.8	1	1.8	3	9.4
その他	6	13.0	3	7.7	11	19.3	4	12.5

で、これまでの調査とほぼ同様である。
(記載なし1名)

- 6) 信仰している宗教があるのは5名、なしが58名で、これまでの調査とほぼ同様である。
- 7) 婚姻関係は、全員が未婚である。
- 8) 家族、親戚、知人の中に医療関係者がいる者は、32名(51.6%)で、97年入学生の57名(72.2%)、96年入学生の39名(50.6%)、95年入学生の46名(59.7%)と、ほぼ同様であり、正田ほかの報告3)と大きな差は見られない。

その職種別内訳は表3のとおりで、看護職が22名(68.8%)で最も多く、次いで医師・歯科医師が7名、薬剤師と養護教諭がそれぞれ3名の順であり、過去の調査とほぼ同様である。

- 9) 看護職を希望するにあたって、
- (1) 最も強く影響を受けたことは、表4-2のとおりで、一日看護体験が最も多く12名(20.3%)、次いでテレビ・新聞・週刊誌等11名(18.6%)、病気・怪我の体験10名(16.9%)の順である。一日看護体験は、調査年次を重ねるごとに、看護職の希望者に強く影響を与えてきているようである。平成3年に制定された「看護の日」「看護週間」を中心に各地で開催されている「看護フェスティバル」「一日看護体験」等のイベントが人材確保や看護職についての理解啓発にそれなりに効果を発揮していることを窺わせる。
- (2) 最も強く影響を受けた人は、表4-2のとおりで、母親14名(23.7%)が最も多く、次いで友人・知人11名(18.6%)となっている。父親(4名)や教員(2名)からは、看護職を希望するにあたって大きな影響は受けていないようである。いずれもこれまでの調査とほぼ同様である。

- 10) 進学のための予備校での学習は、ありが38名(61.3%)、なしが24名(38.7%)である。学習分野は看護専門16名(42.1%)、理系コース14名(36.8%)、医療関係12名(31.6%)、文系コース1名である。いずれもこれまでの調査とほぼ同様である。
- 11) 他の学校の受験状況は、推薦入学以外は全員が他の学校を受験しており、その内訳は、表5-1のとおりである。短

表4-1 看護職を希望するにあたって影響を受けたこと

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数(看護職希望者)	72	100.0	75	100.0	77	100.0	59	100.0
一日看護体験	-	-	7	9.3	10	13.0	12	20.3
病気・怪我の体験	-	-	12	16.0	5	6.5	10	16.9
家族の入院	-	-	18	24.0	26	33.8	7	11.9
友人・知人の入院	-	-	3	4.0	3	3.9	2	3.4
テレビ・新聞・週刊誌等	4	5.6	13	17.3	13	16.9	11	18.6
小説・伝記等	-	-	1	1.3	1	1.3	1	1.7
看護職の人と接して	-	-	9	12.0	11	14.3	8	13.6
その他	-	-	9	12.0	6	7.8	8	13.6
*その他(再掲)	自分の入院 ボランティア活動で 難病いので 不景気だから 自分の適性 計らっていた							
	海外青年協力隊 ボランティア活動で なんとなく 母の勧め 先生の勧め 姉が看護学生							
	祖母の入院・死亡 ボランティア活動で 病院に見学に行って 母が看護婦 収入の安定性							

表4-2 看護職を希望するにあたって影響を受けた人

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	72	100.0	75	100.0	77	100.0	59	100.0
父親	1	1.4	3	4.0	5	6.5	4	6.8
母親	15	20.8	14	18.7	18	23.4	14	23.7
兄弟・姉妹	6	8.3	3	4.0	2	2.6	1	1.7
祖父母	5	6.9	5	6.7	11	14.3	3	5.1
親戚	8	11.1	8	10.7	3	3.9	7	11.9
教員(先生)	2	2.8	6	8.0	5	6.5	2	3.4
友人・知人	9	12.5	13	17.3	10	13.0	11	18.6
その他	19	26.4	21	28.0	19	24.7	16	27.1
記載なし	3	4.2	2	2.7	4	5.2	1	1.7
*その他再掲	自分で決めた12 特になし4							
	自分で決めた4 特になし2 看護婦をみて8 分らない							
	自分で決めた5 特になし8 看護婦をみて2 海外のボランティア 曾祖母							
	自分で決めた2 特になし4 老人ホームの職員 分らない 看護婦、OT 妊婦3、隣人、TV(マザルサ)							

期大学を受験している者が最も多く54名中47名(87.0%)、次いで専門学校37名(68.5%)、四年生大学33名(61.1%)で、これまでの調査とほぼ同様である。複数受験した学校の組み合わせは、表5-2のとおりで、学生の受験行動は、四年制大学と短期大学を受験した群(18名、29.0%)、短期大学と専門学校を受験した群(22名、35.5%)、四年

表5-1 他の学校の受験状況(複数回答)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
他の学校を受験しない	0	0.0	17	22.1	9	11.4	8	12.9
他の学校を受験した	77	100.0	60	77.9	70	88.6	54	87.1
四年制大学	46	59.7	31	51.7	40	57.1	33	61.1
短期大学	65	84.4	42	54.5	63	90.0	47	87.0
専門学校	46	59.7	37	48.1	47	67.1	37	68.5
その他	0	0.0	0	0.0	1	1.4	1	1.9

制大学と短期大学それに専門学校を受験した群(22名、35.5%)の三群に概略区分できる。98年入学生は、第二及び第三の群が多い。特に第三の群が年々増加の傾向にある。これは、表10の「看護職になることを強く希望していた」が37名(59.7%)となり、年々増加していることと関係がありそうである。

12) 本短大についての情報入手先(複数回答)は、表6のとおりで、受験雑誌が最も多く37名(59.7%)、次いで予備校13名(21.0%)、教員(先生)12名(19.4%)、先輩・知人・友人9名(14.5%)の順であり、これまでの調査結果とほぼ同様である。

13) 本短大を希望した理由は、表7のとおりで「公立で学費が比較的高額でないから」が52名(83.9%)で最も多く、次いで「自宅から通学できるから」と「看護系専門学校より短大のほうに魅力があるから」がそれぞれ25名(40.3%)、「学力が自分に相応していたから」と「本短大の学校案内の教育内容をみて」がそれぞれ21名(33.9%)、「受験科目が自分に相応していたから」18名(29.0%)の順である。全体として、本学の選択理由は「公立の短大」、「自宅からの通学」、「学力や受験科目が相応」ということが大きな理由で、これまでの調査結果とほぼ同様である。

14) 卒業後の進路については、表8-1のとおりで、進学志望者が25名(40.3%)、卒業後看護婦として就職するが24名(38.7%)、まだ決めていないが13名(21.0%)である。これまでの調査では進学志望者が多かったが、98年入学生は就職志望者数と進学志望者数が接近してきているようである。

進学志望分野は、表8-2のとおりで、保健婦課程への進学が12名(48.0%)で最も多く、次いで助産婦課程と看護系大学への編入がそれぞれ5名(20.0%)となっている。これまでは看護系大学への編入志望者が多く、進学志望者のほぼ30%以上を占めていたのとは様相を異にしているようである。

短大卒業後の進学志望者が少なくなる傾向を示していることと、進学志望者のうちで看護系大学への編入志望者が減少してきている傾向があるこ

表5-2 複数受験した学校の組み合わせ

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
当短期大学のみ	0	0.0	17	22.1	9	11.4	8	12.9
四年制大学のみ	4	5.2	6	7.8	5	6.3	3	4.8
短期大学のみ	3	3.9	4	5.2	5	6.3	6	9.7
四年制大学と短期大学	23	29.9	18	23.4	13	16.5	9	14.5
四年制大学と専門学校	1	1.3	7	9.1	1	1.3	0	0.0
短期大学と専門学校	21	27.3	20	26.0	24	30.4	12	19.4
四年制大学、短期大学、専門学校	18	23.3	5	6.5	21	26.6	22	35.5
専門学校のみ	0	0.0	0	0.0	1	1.3	4	6.5

表6 本短大についての情報の入手先(複数回答)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
教員(先生)	11	14.3	14	18.2	16	20.3	12	19.4
先輩・知人・友人	0	0.0	8	10.4	11	13.9	9	14.5
家族	8	10.4	7	9.1	4	5.1	3	4.8
受験雑誌	48	62.3	50	64.9	56	70.9	37	59.7
進路リエンション	2	2.6	6	7.8	2	2.5	1	1.6
新聞	7	9.1	2	2.6	0	0.0	1	1.6
予備校	10	13.0	17	22.1	10	12.7	13	21.0
その他	3	3.9	2	2.6	3	3.8	3	4.8

表7 本短大を希望した理由(複数回答)

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
自宅から通学できるから	23	29.9	33	42.9	23	29.1	25	40.3
近くに親戚が住んでいるから	3	3.9	8	10.4	7	8.9	7	11.3
公立で学費が比較的高額でないから	63	81.8	67	87.0	72	91.1	52	83.9
四年制大学に入学しなかったが家族の事情がきかない	5	6.5	4	5.2	7	8.9	3	4.8
受験科目が自分に相応していたから	36	46.8	32	41.6	28	35.4	18	29.0
学力が自分に相応していたから	16	20.8	32	41.6	25	31.6	21	33.9
両親や先生が勧めてくれたから	10	13.0	14	18.2	10	12.7	6	9.7
先輩・友人・知人が勧めてくれたから	-	-	1	1.3	4	5.1	3	4.8
本短大の学校案内の教育内容をみて	15	19.5	28	36.4	23	29.1	21	33.9
新しい短大だから	28	36.4	30	39.0	26	32.9	15	24.2
看護系専門学校より短大の方が魅力があるから	42	54.5	48	62.3	44	55.7	25	40.3
いくつかの学校も受験したが、合格は短大の短大だけ	26	33.8	11	14.3	22	27.8	9	14.5
ただなんとなく	7	9.1	1	1.3	2	2.5	0	0.0
その他	7	9.1	3	3.9	3	3.8	3	4.8

表8-1 卒業後の進路

	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
総数	77	100.0	77	100.0	79	100.0	62	100.0
看護婦として就職	17	22.1	24	31.2	19	24.1	24	38.7
進学する	42	54.5	35	45.5	46	58.2	25	40.3
まだ決めていない	17	22.1	16	20.8	14	17.7	13	21.0
その他	1	1.3	2	2.6	0	0.0	0	0.0

とは、看護系大学の新増設との関係を窺わせるが、今後、経過を見る必要がある。

15) 本短大を受験するまでに希望していた職業の種類を、第三希望まで求めた結果は、表9 のとおり

表8-2 進学希望分野

	95年入学生 人数 構成比(%)	96年入学生 人数 構成比(%)	97年入学生 人数 構成比(%)	98年入学生 人数 構成比(%)
進学希望者	42 100.0	35 100.0	46 100.0	25 100.0
保健婦課程	24 57.1	17 48.6	14 30.4	12 48.0
助産婦課程	14 33.3	9 25.7	12 26.1	5 20.0
看護教諭課程	5 11.9	3 8.6	8 17.4	2 8.0
看護系大学への編入	20 47.6	11 31.4	17 37.0	5 20.0
その他(看護系以外)の大学編入	5 11.9	3 8.6	0 0.0	0 0.0
外国留学	6 14.3	1 2.9	2 4.3	1 4.0
その他	4 9.5	0 0.0	1 2.2	0 0.0
*その他再掲	視能訓練士 言語聴覚士 他の大学へ入学			

表9 本短大を受験するまでに希望していた職業(第三希望まで)

	95年入学生 人数 構成比(%)	96年入学生 人数 構成比(%)	97年入学生 人数 構成比(%)	98年入学生 人数 構成比(%)
総数	77 100.0	77 100.0	79 100.0	62 100.0
看護職	69 89.6	75 97.4	77 97.5	58 93.5
保健婦	- -	22 28.6	26 32.9	14 22.6
助産婦	- -	9 11.7	20 25.8	13 21.0
看護婦	- -	43 55.8	39 49.4	34 54.8
医師・歯科医師	5 6.5	6 7.8	4 5.1	6 9.7
薬剤師	9 11.7	16 20.8	11 13.9	6 9.7
臨床検査技師	7 9.1	6 7.8	8 10.1	5 8.1
理学・作業療法士	8 10.4	8 10.4	8 10.1	11 17.7
診療放射線技師	2 2.6	2 2.6	2 2.5	3 4.8
視能訓練士	3 3.9	0 0.0	2 2.5	1 1.6
養護教諭	12 15.6	18 23.4	17 21.5	8 12.9
栄養士	11 14.3	6 7.8	5 6.3	6 9.7
歯科衛生士	1 1.3	0 0.0	3 3.8	2 3.2
介護福祉士	3 3.9	10 13.0	3 3.8	5 8.1
保母	15 19.5	10 13.0	9 11.4	12 19.4
教員	12 15.6	12 15.6	6 7.6	6 9.7
獣医師	2 2.6	5 6.5	4 5.1	4 6.5
その他	10 13.0	9 11.7	8 10.1	12 19.4
*その他再掲	鍼灸師2 美術関係1 研究所 会社員2 料理店 特になし2			
	言語聴覚士 カンセラ-2 音楽関係 警察官、司書 スタッフ等			
	建築デザイナー カンセラ- 芸能関係2 司書 調理師 仏教関係教師 ワグナーコーディネーター			
	言語聴覚士 カンセラ- 公務員 警察官、会社員 カウンセラー、編集者 美容師2、被服関係 特になし			

表10 看護職希望の程度

	95年入学生 人数 構成比(%)	96年入学生 人数 構成比(%)	97年入学生 人数 構成比(%)	98年入学生 人数 構成比(%)
総数	77 100.0	77 100.0	79 100.0	62 100.0
看護職になることを希望していた	69 89.6	75 94.9	77 97.5	59 95.2
看護職になることを強く希望	34 44.2	37 48.1	42 53.2	37 59.7
できれば看護職になりたかった	15 19.5	15 19.5	17 21.5	15 24.2
なんとなく看護職を考えていた	19 24.7	22 28.6	18 22.8	7 11.3
記載なし	1 1.3	1 1.3	0 0.0	0 0.0
看護職になることを希望していなかった	8 10.4	2 2.6	2 2.5	3 4.8

表11 進路決定時期

項 目	95年入学生 人数 構成比(%) n=77	96年入学生 人数 構成比(%) n=77	97年入学生 人数 構成比(%) n=79	98年入学生 人数 構成比(%) n=62
1 小中学生	19 24.7	27 35.1	26 35.1	16 25.8
2 高校 1年生	10 13.0	5 6.5	14 17.7	14 22.7
3 高校 2年生	20 26.0	21 27.3	19 24.1	16 25.7
4 高校 3年生	16 20.8	14 18.2	14 17.7	9 14.5
5 その他	12 15.0	10 13.0	6 7.6	7 11.3

である。看護職が58名(93.5%)で圧倒的に多く、その内訳は看護婦34名、保健婦14名、助産婦13名である。看護職に次いで保母12名(19.4%)、理学・作業療法士11名(17.7%)、養護教諭8名(12.9%)の順である。全体としてみると、これまでの調査結果とほぼ同様である。

16) 看護職希望の程度は、表10のとおりである。本短大を受験するまでに「看護職になることを強く希望していた」のは37名(59.2%)、「できれば看護職になりたかった」は15名(24.2%)、なんとなく看護職を考えていた」は7名(11.3%)である。これ迄の調査と比較して「看護職になることを強く希望」している者が年々増加する傾向にある。前述したように、このことは、進学志望者の減、看護系大学への編入希望者の減、看護系大学の新増設がどのような関係になるのか、看護系短期大学の将来性を含めて経過を見る必要がある。

2. キャリア発達

1) 進路決定時期;98年入学生の進路決定時期は、表11のように小・中学生の時が最も多く25.8%であった。開学から過去4年間の入学時の比較では、大きな変化はみられないが、98年入学生が最もこの傾向が高かった。

次いで、高校生では、2年次が高く、25.7%であった。高校生では、開学から過去3年間の入学時の比較によると、96年入学生が27.3%となっている¹⁾。進路決定時期が年々早まる傾向にある誘因として考えられることは、バブル崩壊の経済混乱の影響を受けているためでもあるが、さらに、一般的に専門職志向が高まっていて、早期に看護職を志向する傾向が現れていると考えられる。

2) 働きたい職場選択の条件;98年入学生の職場選択の条件では、「人間関係が良いところ」が最も多く25名(40.3%)であり、次いで「休暇がとれる」、「自分のやりたい仕事ができる」であった。

この順位は、過去3年間の傾向と同様で、

一般看護婦の職業選択と同様の傾向を示している¹⁾。このことは、学生にとっても職場は看護実習での関わりのみではあるが、将来働く場であろう職場の人間関係が、重要な要素であると言える。

表12 働きたい職場選択の条件

項 目	97年入学生		98年入学生	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
	n=79		n=62	
1. 給料が高い	4	5.1	1	1.6
2. 学習・研究ができる	4	5.1	6	9.7
3. 休暇が取れる	7	8.9	8	12.9
4. 人間関係が良い	35	44.3	25	40.3
5. 自分のやりたい看護ができる	28	35.4	19	30.7
6. その他	1	1.3	3	4.8

3) 職業継続の意志;98年入学生の職業継続の意志は、「子供ができたら一時やめて子供の手が離れたら再就職する」が最も多く50.0%で、次いで「結婚しても、子供ができて、仕事を続けたい」が26.5%であった。これらの傾向は、年度差があり、95年入学生(初年度入学生)は、「結婚しても、子供ができて、仕事を続けたい」が33.9%で、4年間で最も高率であった¹⁾。女性の多い職業にあっては、キャリア志向と生涯学習の意欲が高まっているが、入学年度によっては、職業継続の意志の考え方に相違がみられた。これらの原因としては、人口構造の変化(即ち少子・高齢社会)という情報や子育てに対する価値観の相違と推測できるが、それらの点に関しては調査していないので、今後の調査が必要である。

表13 職業継続の意志

項 目	95年入学		96年入学		97年入学		98年入学	
	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)	人数	構成比(%)
	n=77		n=77		n=79		n=62	
1. 結婚するまで続けたい	-	-	-	-	-	-	1	1.6
2. 結婚しても子供ができるまで続けたい	4	5.2	8	10.4	2	2.6	5	8.1
3. 子供ができたら一時止めて子供の手が離れたら就職したい	30	39.0	39	50.6	56	71.8	31	50.0
4. 結婚しても、子供ができて職業を続けたい	40	51.9	26	33.8	17	21.8	21	33.9
5. その他	3	3.9	4	4.2	1	1.3	4	6.4

4) 看護婦の職業イメージ;98年入学生の看護婦の職業イメージは、最も平均値の高いのが「やりがい」で4.9で、次いで「社会的貢献」が4.8であった。逆に看護婦のイメージで、平均値の低いのは「勤務時間」が1.8で、次いで「賃金・収入」が3.3であった。このような傾向は、過去3年間同様で変化は見られなかった¹⁾。

職業人として、実際の体験のない学生が種々の看護婦に対する職業イメージを抱く原因としては、社会や家族・学校の先生や友人などからの情報の

共有と考えられるが、それらの点に関して、今後の調査が必要である。

表14 看護婦の職業イメージ

n=62

項 目	98年入学生				
	良い (5)	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い (1)
1. 賃金・収入	9	19	19	9	6
2. 仕事の将来性	27	24	10	1	0
3. 勤務時間	0	1	10	29	22
4. 仕事の内容	17	9	23	9	4
5. 職場の環境	7	9	33	11	2
6. 社会的な評価	9	25	14	11	3
7. 仕事の専門性	47	14	1	0	0
8. 社会的貢献	48	13	1	0	0
9. やりがい	58	4	0	0	0
10. 職場の人間関係	4	6	48	4	0

5) ライフスタイルについて;98年入学生のライフスタイルについて、最も平均値が高いのは「自分の目標に向かって生きていきたい」39名(62.9%)で、次いで、「結婚して安定した生活がしたい」が35人(56.5%)、「その時、その時、考えながら生きていく」が44人(64.7%)の順であった。

この傾向は一般女子学生と同様な傾向であるが、「あまり無理をしないで、趣味を楽しみながら生きていきたい」が20名(32.3%)で、また、「結婚しなくとも特にこだわらない」が12名(17.7%)で、まさに現代の若者気質を示している状況が推測できる。

「自分の目標に向かって生きていきたい」が第1位と高率であることは、看護という専門職をめざした短期大学入学者を対象とした調査であるためと考えられる。

現代社会においては、1992年度の総理府調査によると、日本は未だ性役割において家事を守るのは女性が9割を超えているというが、結婚しなくとも特にこだわらないということは、女性に対する家事役割の負担の多さによっても考えられる。これらのことについて、今後の継続調査が必要である。常勤の公的機関に努める女性の夫は、家事を一部担ったり、

表15 ライフスタイル

n=62

項 目	98年入学生 (複数回答)	
	人数	構成比(%)
1. 結婚しても安定した生活がしたい	35	56.5
2. 結婚しなくとも特にこだわらない	17	27.4
3. 結婚したくない	2	3.2
4. あまり無理しないで、趣味を楽しみながら暮らしたい	20	32.3
5. 仕事を中心にいきたい	4	6.5
6. その時、その時、考えながら生きていく	37	59.7
7. 自分の目標に向かって生きていく	39	62.9
8. 特に考えたことはない	0	0.0
9. その他	1	1.6

或いは平等に分担する傾向が増加しているというが、このような場合、育児や家事を援助する公的なサポートがしっかりしないと、仕事中心に生きる場合は、増加しないだろう。

- 6) 自分自身の自尊感情;自尊感情に関しては、通常得点群(20～29点)が多く72.6%で、過去3年間でみると、95年入学生に類似した結果がみられた¹⁾。次いで高得点群(30点以上)が14.5%であった。

自分自身の当てはまり具合に関しては、4段階の尺度により、「そう」と答えた者の平均得点値が高いのは、「私は、自分に対して前向きな態度をとっている」が3.145で、次いで「私はたいいていの人やれる程度には物事ができる」が2.817であった。これらの平均得点は、過去3年間より高い¹⁾。

寺島ほかは、公立短期大学の学習態度と自尊感情の縦断的研究の中で「自尊感情は学年の進行とともに高まる」と述べていて、「最も高い平均得点が3.06」と言っている²⁾。今回の調査では、公立短期大学という同一条件の一年次の学生であるが、本調査では、寺島ほかの述べた短期大学看護学生の卒業時より平均得点が高いことが分かり、興味深い結果であった。その理由は、地域差による学生の認識の違いが考えられるが、今後の検討課題である。

表16 自尊感情(Self-Esteem)

項 目	95年入学生		96年入学生		97年入学生		98年入学生	
カテゴリー	人数 n=77	構成比(%)	人数 n=77	構成比(%)	人数 n=79	構成比(%)	人数 n=62	構成比(%)
低得点(19点以下)	21	27.3	9	11.7	7	9.0	8	12.9
通常得点(20～29点)	42	54.5	51	66.2	57	73.1	45	72.6
高得点(30点以上)	14	18.2	17	22.1	14	17.9	9	14.5

IV まとめ

開学(1995年)以来4年間にわたって、本短大の1年生を対象として、主な社会的背景及び卒業後の進路、キャリア発達について調査を行った。対象は95年入学生80名(女子79名、男子1名)、96年入学生80名(女子77名、男子3名)、97年入学生80名(女子78名、男子2名)、98年入学生80名(女子72名、男子8名)で、回答率は各々96.3%、96.3%、98.7%、77.5%であった。96年入学生から新たに推薦入学制度を設け、96年には16名、97年には9名、98年には8名が推薦で入学している。

1. 95年入学生に比較して、それ以後の入学生は平

均年齢が低下し、20歳未満の占める割合が増加し、若年化の傾向がみられる。推薦入学制度の影響を窺わせる。

2. 高等学校での課程は、普通科が最も多いが、これまでは理数科、商業科からの入学生がいる。
3. 98年入学生では、自宅からの通学者が68%と多くなり、自分専用の個室を有している者の割合が90%と多い傾向にある。通学に要する時間は、96年入学生以降は短縮の傾向にあるが、通学時間が2時間以上を要する者がおり、健康上の配慮が必要であろう。
4. 家族・親戚・知人の中に医療関係者の居る者は、98年入学生で52%おり、各年ともほぼ同様の割合である。
5. 看護職を志望するにあたって最も強く影響を受けたことは、調査年次を重ねるごとに「一日看護体験」の割合が増加し、98年入学生では、第一位で20%に達している。次いでテレビ・新聞・週刊誌19%、病気・怪我の体験17%の順となっている。

また最も強く影響を受けた人は母親(24%)で、次いで友人・知人(19%)の順となっている。

6. 他の学校の受験状況は、短期大学が最も多く、次いで専門学校、四年制大学の順である。

複数受験した場合は、四年制大学と短期大学それに専門学校を受験する者が増加の傾向にある。

7. 短大卒業後の進路については、98年入学生では進学志望者が40%、次いで就職志望者が39%であり、進学志望者の減少を窺わせる。なかでも98年入学生については、四年制看護系大学への編入希望者は、進学希望者全体の20%となり、前年(97年入学生)の37%に比較して減少が著しい。

8. 看護職志望の程度は、本短大を受験するまでに「看護職になることを強く希望していた」が59%で、年々増加の傾向にある。

9. 進路決定時期は、小・中学生の時が最も多い。98年入学生にこの傾向が強い。

10. 職業選択の条件では、「人間関係が良いところ」が最も多い。

11. 職業継続の意思は、「子供ができた一時やめて子供の手が離れたら再就職する」が最も多い。

12. 看護婦の職業イメージで、最も平均値が高いのは「やりがい」で、過去3年間同様である。

13. ライフスタイルについて、最も平均値が高いのは「自分の目標に向かって生きていきたい」である

が、年度ごとに差がみられた。

14. 自尊感情に関しては、通常得点(20～29点)が最も多く、72.6%で、次いで高得点群(30点以上)が14.5%で、低得点群(13.2%)の順であった。自分自身の当てはまり具合に関しては、平均得点は、過去3年間より高い者が多い。

V おわりに

開学以来、4年間継続して、本学入学当初の学生

の職業に対する意識等を調査し、入学年次による変化を知ることができた。今後、どのように変容していくか追跡調査を実施し、教育課程の編成や指導方法の改善の資料として活用したい。

本研究は、限られた公立の単科の看護短期大学の調査であるという限界がある。今後の課題としては、入学時の調査だけでなく、社会情勢のダイナミックな変化に学生がどのように影響を受けているか等を質的・縦断的に研究する必要がある。

引用文献

- 1) 陣田泰子ほか;看護学生の職業意識－開学3年間の比較－、川崎市立看護短期大学紀要、3(1)、pp. 22-23、1997
- 2) 寺島喜代子ほか;看護学生の学習態度と自尊感情の縦断的研究－ある公立看護短期大学の場合－、日本看護研究学会誌、12(4)、pp. 12-17、1998

参考文献

- 1) 井澤方宏ほか;看護学生の職業に対する意識調査、川崎市立看護短期大学紀要、1(1)、pp. 1-22、1996
- 2) 國岡照子ほか;学生の保健行動に関する研究-健康観、理解度、日常行動-川崎市立看護短期大学紀要、1(1)、pp. 13-21、1996
- 3) 正田美智子ほか;本学学生の職業に対する意識調査、群馬県立医療短期大学紀要、1(1)、pp. 123-135、1994

A Study on Nursing Students' Vocational Consciousness
— Four Year Comparative Study Since School Foundation —

Fumio TAKEUCHI Masahiro ISAWA Teruko KUNIOKA Kimiko KASHIRO
Kimie SHIBAHARA Seiji MITA Motoi OE Yasuko AOKI

Abstract

It is very important to grasp students' social background and vocational consciousness to accomplish education of nursing students effectively. We conducted a survey on our nursing students entering in 1998 (hereafter referred to as '98 students) based on the vocational consciousness survey for the past three years. The contents of the survey are students' social background, motives of applying for nursing college, the careers to pursue after graduation, their potentials for career development and their self-esteem. The results are as follows:

- 1) As for the '98 students, those who attended college from their own home increased comparatively and those who had private room also increased.
- 2) Some students took longer than two hours to attend college, which requires special concerns for their health.
- 3) The rate of students who chose "one day nursing experience" as the most influential to prefer to be a nurse increased.
- 4) As for the course to take after graduation, those who wished to proceed to higher education decreased and especially those who wished to proceed to four year nursing college tended to decrease.
- 5) As to the degree of aspiration to be a nurse, "those who wished strongly to be a nurse" tended to increase year by year.
- 6) There was no difference among the past four years concerning the period to decide their vocational career. However, '98 students tended most to decide as early as during elementary and junior high school.
- 7) The highest priority of working condition was "good human relations" same as the results of the past three years. This tendency is quite similar to preferable working condition of nurses in general.
- 8) As to the will to continue to work, most of '98 students answered to quit their job temporarily if they had children and return to work when their children grew up. This tendency varied significantly among years.
- 9) The highest average score of the vocational image of nurse was "worthwhile job", which was all the same throughout the past three years.
- 10) The highest average score of life style was "attaining to their own goals." This tendency varied significantly among years.
- 11) As to self esteem score, most '98 students were middle score group (ranging from 20 to 29) (79.59%), next was high score group (higher than 30) and then the low score group was 13.2%.

Key Word:

Social background of nursing student
Vocational career after graduation
Continuation of working
Self esteem